

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374000285		
法人名	社会福祉法人一誠福祉会		
事業所名	グループホームうらら(さくらの里)		
所在地	愛知県新城市矢部字上の川1番地4		
自己評価作成日	令和4年9月16日	評価結果市町村受理日	令和5年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2374000285-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2374000285-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年10月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人理念の「ノーマライゼーション」とホームの理念である「笑・快・安」を基本とし、利用者の持つ力を最大限発揮して頂ける様な支援を心がけています。日常生活では、調理や洗濯、掃除を取り入れ家庭的な雰囲気を重視しています。  
 現在、感染症予防の為外出行事を控えており、他施設との交流も無くなってしまっていますが、出来る限り季節ごとの行事を取り入れ、楽しんでいただけるよう支援しています。  
 日中は出来る限り身体を動かして頂く事で、夜間十分な睡眠がとれるように支援をし、利用者の健康管理に気を付けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

感染症問題が長期化していることで、利用者の外出行事等の取り組みが困難な状況が続いているが、ホーム建物の前にある庭の整備を行いながら、利用者が気軽にホームの外に出て、畑や花壇の手入れを行うことができる機会をつくっており、ホームでの生活に閉塞感を感じないような配慮が行われている。家族との交流についても困難な状況が続いているが、当ホームの多くの利用者が、今までのかかりつけ医を継続していることで、家族の支援で受診対応が行われていることで、利用者と家族との交流の機会にもつながっている。ホームの継続的な取り組みとして、利用者が毎日の入浴ができるように支援が行われており、清潔感を維持しながら利用者が入浴を楽しむ機会にもつながっている。食事作りについても、職員でメニューを考えながら、利用者の好みや嗜好等にも配慮した対応が行われてい

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑・快・安」を事業所の理念として職員間で共有し、利用者の方には家庭的で心地良く、安心して生活を送って頂けるよう努めています。	運営法人の基本理念でもある「ノーマライゼーション」を支援の基本に考えながら、ホーム独自の理念でもある「笑・快・安」を職員間で共有する取り組みが行われている。また、職員一人ひとりが振り返りの機会をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事(祭礼、盆踊り、避難訓練、運動会等)に参加し、地域の方達とつながりがもてるよう支援していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防の為自粛している。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流も中断しており、現状、地域の行事への参加も行われていない。例年は、近隣のグループホームとも連携した地域の公民館を借りたカフェが行われているが、カフェについても中断している状況である。	近隣のグループホームの方と連携したカフェの取り組み等、地域貢献にもつながる取り組みが行われていたこともあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	他事業所と共同で月1回認知症カフェを開催し、地域の方達に認知症への理解を持って頂く場を設けていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防の為自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防の為書面での開催となっている。意見や要望等はFAXや電話にて受け付け、頂いた意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	会議については、書面による実施が続いており、関係者に書面の配布を行いながら、ホームの運営状況の細かく記載した文書による報告が行われている。会議を開催する際には、多くの地域の方や家族の参加が得られており、定期的な情報交換の機会につなげている。	会議について、長期にわたり書面による実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、会議の再開に向けた検討にも期待したい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者と連絡を密に取っているとは言えないが適時管理者や担当職員が連絡を取り合い、事故や疑問点、問題点があれば報告や問い合わせを行ない連携が図れている。	市担当部署や広域連合との情報交換等については、運営法人の特養等の関連事業所を通じて行われており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、感染症問題が起きる前は、市内の介護事業所と連携した「RUN伴」に参加する取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	19時から翌8時までの夜間帯のみ施錠している。日中も見守りが困難な場合のみ一時的に施錠をすることがある。月1回のフロア会議の際、身体拘束にあたるケアをしていないか話し合いをしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者が玄関から外に出ることが可能であり、職員間での見守りが行われている。また、併設事業所と連携した委員会での検討の他にも、運営推進会議にも報告しており、関係者の理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を設置し、年2回荘内研修を実施している。職員はできるだけその研修に参加し、参加出来ない職員は各自で資料を読み、学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修の機会があれば順番に参加し、資料を回覧しているが、個々の必要性を話し合うことはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に説明を行い、改定がある際は書面を郵送し伝えている。不安や疑問点のある際は十分な説明ができるよう努め、理解・納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月郵送するお便りに意見を記入できる用紙も同封し、FAXで送って頂いたり、直接意見を伺ったりしている。 頂いた意見や要望は運営に反映できるよう努めている。	感染症問題が続いていることもあり、現状、家族との面会をLINE方式にする等の対応が行われている。苦情相談窓口として、重要事項説明書に第三者委員を明示する取り組みが行われている。また、毎月のホーム便りを作成し、利用者の暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやミーティング、月1回行うユニット会議で意見を聞き、できる限り運営に反映させることができるよう努めている。	毎月の会議や職員間での日常的な意見交換等を通じて出された職員からの意見等を管理者が起案書にまとめ、ホームの運営への反映につなげている。また、併設事業所の施設長でもある荘長による職員面談が行われており、職員の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務評価については、日々の勤務状況から評価を行っている。また各職員は、係・行事などの担当があり、向上心を持って働けるようにしている。キャリアパス制度を導入し評価基準に合わせて適正に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が個々の能力に見合った外部研修に参加出来る体制を作り、実践している。 新たに配属された職員に対しては、仕事に慣れるまでの期間、指導役の職員を配置し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内外の運営推進会議や共同企画行事等に参加していたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防の為中止している。 流行の緩和が見られた際は、徐々に再開していけるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時や入居後も本人の思いに耳を傾ける努力をし、本人が安心して生活できるような信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の介護への不安や要望を傾聴し、その要望をできる限り介護に反映させることで信頼関係が築けるよう努めている。 又、ご家族が意見を言いやすい雰囲気を作れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入の段階から本人やご家族と話し合いを行い、本人やご家族が必要としているサービスを見極め、他のサービス利用も含めた検討をし、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の家事活動を一緒に行ったり、テレビや新聞を一緒に見たりしている。その中で職員の知らない事があった際は教えて頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期受診の支援をご家族に依頼している。困難な場合は職員が支援することで共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や親戚、友人等馴染みの方がいつでも面会に来られるようにしているが、現在は新型コロナウイルス感染対策の為直接会っての面会は中止し、オンライン面会で対応している。	外部の方との交流が困難になっているが、関連事業所に当ホームの利用者と関係の近い方が利用しており、例年は、利用者同士で交流する支援が行われている。家族との外出については、医療機関への受診等を通じた外出が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や利用者同士の相性を把握し、個別や一緒の活動を行っている。出来ない事でもお互いに教え合う事で関わりを持ち、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も今後の方向性への助言や、他施設への紹介を行い、ご家族や本人から相談があれば情報を提供できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中でご本人の思いや希望を聞く努力をし、職員全体が情報を共有できるよう努めている。困難な場合は、本人の立場になって検討できるよう努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みみや職員間で情報交換等も行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を把握し、日常の支援やアセスメントにつなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、これまでサービス利用を担当してきたケアマネや事業所などに聞き取りし、把握に努め、ホームのサービスに出来る限り反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子を記録に残し、職員間で共有することで、生活習慣や心身状態等の現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に、本人や家族、職員の意見を取り入れながら話し合い、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている。	介護計画は、3か月での見直しが行われている。独自の「案件板」も活用しながら、利用者の変化等の情報交換が行われており、介護計画の見直しにもつながっている。利用者毎に記録用紙を用意する工夫も行いながら、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子やケアの実践・結果を記入、気づきや工夫を連絡ノートに記入することで情報を共有し、会議の際に見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者や家族一人ひとりの違いを理解し、それぞれの意向に沿ったケアを実践出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域での行事(祭りや避難訓練、運動会)に参加し、本人が豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は継続していただき、定期受診の支援はできる限り家族にお願いしている。家族による支援が難しい場合はホームで支援している。	現状、多くの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続しており、家族の支援で受診対応が行われている。ホームに看護師が勤務していることで、利用者の医療面での支援や家族への情報提供等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃より利用者の身体観察を行い、異変がみられたら看護師に報告・相談をし、指示を受け、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談を行い、治療に専念したり、できるだけ早期に退院ができるよう努めている。又、退院後の支援方法の相談をし、助言をもらうことで病院関係者との関係がつかれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の状態やADLレベルを踏まえ、共同生活が困難になる前の早い段階から家族と話し合いを行い、必要に応じて他のサービスの紹介や移行の説明をしている。	看取り支援が行われていないことを家族にも説明が行われており、利用者の身体状態等の段階に合わせた特養等への移行支援が行われている。可能な限りホームでの生活を継続する取り組みも行われており、食事や入浴等の検討が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会があれば参加し、学びの機会を作っている。又、施設の看護師に緊急時の対応方法を学ぶことで全職員が実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の特養と定期的に合同避難訓練を行っている。施設でも年2回程訓練を行えるよう努めている。	年2回の避難訓練を実施しており、併設の関連事業所との合同の訓練も行いながら、事業所間での連携が行われている。訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。備蓄品については、関連事業所及び当ホーム内に確保している。	地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあり、非常災害に関する情報交換等も困難な状況が続いている。今後の感染症の状況もみながら、地域の方との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合った、あまり堅苦しくならず、馴れ合いすぎにもならないような声掛けができるよう心掛けている。	運営法人が掲げている「ノーマライゼーション」の理念の下、利用者一人ひとりを尊重した対応や言葉遣い等を行うように職員間での意識向上が行われている。また、職員の接遇にもつながる研修が行われており、職員の振り返りや注意喚起につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活で本人の思いや希望が表現できるような声掛けや雰囲気作りをし、利用者が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日何がしたいか本人の要望を聞き、できる限りその人のペースでゆっくりと生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己にて整容やおしゃれができる方には行っていただいている。自己での整容が難しい方は職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者が一人ひとりのできる事を活かしながら職員と協力して準備や片付けをすることで、食事の時間が楽しいものになるよう支援している。	職員でメニューを考え、食材を買い物で調達して調理が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供が行われている。職員も利用者と同じ食事を行う取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の状態に合わせて食事を粥や刻みにして提供している。 食事摂取量が少い方にはプリンやゼリーを提供することで摂取量が一日を通じて確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自己にて口腔ケアができる方は毎食後声掛けにて行っていただき、できない方は職員が支援している。 週に2回義歯を消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックをつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握することで、個人に合わせた排泄介助を心がけると共に、自立にむけた支援ができるよう努めている。	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報交換等も行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。利用者が布パンツで過ごすことができるように、排泄状態の維持に取り組んでいる。看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルトを提供したり、ラジオ体操をして体を動かすことで自然な排便を促している。食事でも食物繊維が摂れるメニューを考えて提供するよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は毎日行っているが、時間は15時～18時までと決めてしまっている。一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて入浴ができるよう支援している。	利用者が毎日の入浴ができるように支援が行われており、実際にほぼ全員の方が毎日の入浴が行われている。現状は、職員1名での入浴支援が行われている。温泉の湯を活用した足湯の楽しみや季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣やリズムを尊重し、本人のペースで生活していただいている。また、本人が日中も自由に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師から説明を受け理解できるよう努めている。服薬していて副作用とみられる症状がでた際は看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の趣味・嗜好の把握に努め、楽しく生活していただけるよう心掛けている。一人ひとりのできる事に合わせた家事活動に参加していただくことで役割を見いだせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望を聞き、出かけたい場所へ行くことができるよう支援しているが、現在は、新型コロナウイルス感染予防の為に中止している。	感染症問題が続いていることで、外出行事が中断しているが、ホームから離れた場所にあるゴミ捨て場所まで出かける等、利用者が日常的にホームの外に出る機会をつくる取り組みが行われている。また、ホームの畑を整備する取り組みも行われている。	例年は、年間を通じて様々な場所に外出する取り組みが行われていたこともあるため、感染症の状況もみながら、今後に向けたホームの前向きな取り組みにも期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	殆どの利用者は自己管理が困難であり、ホームでお小遣いとして管理している。希望の品や必要な物があつた際は職員が代行したり、一緒に買物に行き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や本人からの希望があれば電話できるよう支援している。また、手紙のやりとりもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	心地良く過ごしていただけるよう共用空間の整理整頓に努めている。その他の空間も光や音、室温等に気を配っている。また、季節の花をテーブルに飾り、楽しんでいただけるよう心掛けている。	ホーム内は広い空間と天井も高いことで開放感があり、利用者が毎日の生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。畳コーナーを撤去してソファを配置しており、現状に合わせた改善が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では自由に過ごしていただいているが、自然と個々の慣れた場所で過ごされている。ソファを配置し、気の合った方同士で楽しく過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用されていた家具を持ってきていただき配置することで、本人が心地良く生活できるよう工夫しています。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類の他、冷蔵庫の持ち込みも行われており、利用者が好みの飲料水を保管している方もいる。居室については、畳敷きの居室も用意されていることで、ベッド以外の生活にも配慮した対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来る事に着目し、出来る限り自立支援を心掛け、安全かつ安心した生活を送っていただけるように工夫している。		